

119番からの口頭指導と市民による心肺蘇生の質に関する研究のお知らせ

帝京大学医学部附属病院では以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：平成 27年 12月 11日 ～ 平成 28年 11月 30日

〔研究課題〕 119番からの口頭指導の改善と市民による心肺停止患者への心肺蘇生(胸骨圧迫)の質に関する研究

〔研究目的〕 心肺停止患者に対しては、救急隊到着までの間に市民が行う蘇生行為(胸骨圧迫)が患者の生命予後を大きく改善します。したがって、119番通報した市民にたいして、応急手当の指示(口頭指導)を行うことが重要です。本研究では、消防本部で119番通報を受ける通信司令員に教育を行い、口頭指導の内容を改善することで、市民による胸骨圧迫の実施率や、適切さが向上するか明らかにします。

〔研究意義〕 本研究では、少数のモデル消防本部で実施された通信司令員への教育効果を示し、全国的に同様の教育を実施する上での根拠を提示します。

〔対象・研究方法〕 2014年度中に、以下の8消防本部で通信司令員に対する教育を実施しています。教育前1ヶ月間、教育後1ヶ月間に心肺停止で救急搬送された方について、口頭指導の有無、市民による胸骨圧迫の有無、胸骨圧迫の適切さなどについてデータを収集しています。胸骨圧迫の実施割合、適切な胸骨圧迫の割合を教育の前後で比較し、教育の効果を評価します。救急搬送された方のデータ収集を行った期間は消防本部ごとに異なりますが、教育前は2014年10月～12月に、教育後は2014年12月～2015年3月に行っています。

〔研究機関名〕 函館市消防本部、大船渡消防組合消防本部、秋田市消防本部、南那須地区行政事務組合消防本部、浜松市消防本部、豊田市消防本部、神戸市消防本部、松山市消防本部

〔個人情報の取り扱い〕 データは連結不可能匿名化(個人が特定できる情報が完全に消去されています)した形で登録されていますので、個人が特定されることはありません。帝京大学でデータを分析する際は、研究代表者が責任を持ってデータの管理を行います。データは研究目的以外に使用することはありません。研究成果は個人が特定できないような形で発表します。個人を特定するための情報が完全に削除されているため、お申し出により分析から個人データを除外することはできません。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問 い 合 わ せ 先

研究責任者：救急医学講座教授 坂本哲也

研究分担者：救急医学講座准教授 中原慎二

住所：板橋区加賀 2-11-1 TEL:03-3964-1211(代表) [内線 33129]